

氏名	肖 婧
氏名	XIAO, JING
学位の種類	博士(学術)
学位記番号	甲 第 2 1 2 号
学位授与年月日	2 0 1 9 年 6 月 2 8 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	中国人日本語学習者のメンタルレキシコンの構造と聴解力との関連性 (A Relation between the Structure of the Mental Lexicon and the Listening Proficiency of Chinese Learners of Japanese)
論文審査委員	主 査 教 授 森 島 泰 則 副 査 教 授 佐 藤 豊 副 査 教 授 半 田 淳 子

論文内容の要旨

本論文は、上級レベル中国人日本語学習者のメンタルレキシコン（語彙知識）の構造の解明を研究課題とした実証的研究である。日本語と中国語に漢字が共通して存在することは、中国人日本語学習者が短い時間で上級レベルに到達する重要な要因の1つであると考えられる。しかし、非漢字圏の学習者では読解力と聴解力に正の相関があるのに対し、中国人日本語学習者の中には、読解力は高いが、聴解力は必ずしも高いとは言えない学習者が存在する。本論文では、このような中国人日本語学習者に特徴的に見られる、読解力と聴解力の乖離に着目し、それがどのような要因によるのかを検証しつつ、中国人日本語学習者のメンタルレキシコンの理論的構造を考察する。

本研究では3つの実験を行なっている。音声語彙判断課題を用いた実験1から、日中同根語のL1（中国語）の音韻表象が活性化されることによってL2（日本語）の音韻表象の活性化が促進されるという結果が得られた。この結果から、L1の音韻表象とL2の音韻表象が連結していることが示唆された。さらに、L2（日本語）の聴解力の向上とともに、L1（中国語）の音韻表象の活性化の度合いが少なくなる、つまり、メンタルレキシコンにおけるL2（日本語）の同根語の音韻表象の休止活性化レベルが、高聴解力学習者は低聴解力学習者より高いと考察した。プライミング課題を用いた実験2から、日本語聴解力が高い学習者では、メンタルレキシコン内において日中同根語の音韻表象から意味表象への連結が強いことが示唆された。実験3では文脈効果を検討し、日本語聴解力の高い学習者のメンタルレキシコンにおける日中同根語の意味表象から音韻表象への連結は強いが、日本語聴解力の低い学習者のメンタルレキシコンにおける日中同根語の意味表象から音韻表象への連結は弱いと解釈した。

これらの実験結果をもとに、表音文字言語のバイリンガル・メンタルレキシコンの理論であるBLINCS (Bilingual Language Interaction Network for Comprehension of Speech)モデルをベースとして中国人日本語学習者のメンタルレキシコンのモデルを提唱した。その主な論点は、表音文字言語のバイリンガル話者の場合、L2の語彙の出現頻度がメンタルレキシコンにおけるL2の音韻表象と意味表象との連結の強さに影響を与えるのに対し、中国人日本語学習者の場合でそうとは言えず、L2の音韻表象と意味表象との連結の強さは、L2の語彙の音韻表象と意味表象が同時に活性化される頻度によると考えられ、高聴解力学習者は低聴解力学習者に比べ、L2の音韻表象と意味表象とが強く連結されているという点である。

論文審査結果の要旨

バイリンガル・メンタルレキシコンの構造に関する研究は、表音文字言語のバイリンガル話者を対象とした研究が中心であるが、本論文は表意文字である漢字を使うL1とする中国人日本語学習者を対象とすることによって、バイリンガル・メンタルレキシコン研究に新たな知見を提示している。実験結果をもとに、現在有力とされているBLINCS (Bilingual Language Interaction Network for Comprehension of Speech)モデルに改変を加え、中国人日本語学習者のメンタルレキシコン・モデルを提唱するという意欲的な論文となっている。

本論文では、日中語の音韻類似性、音韻表象と意味表象の連結度、文脈効果を検証するため、3つの実証実験を行っている。精緻な実験計画を立て、語彙性判断課題などを用いた認知的心理学的実験手法を用いて仮説検証を行なっている点が評価に値する。例えば、日中語の音韻類似性の判断根拠となる評定について、先行研究で行われている主観評価による調査データ(茅本, 1995)に加え、より客観的指標としてLi & MacWhinney (2002)の提唱するIPAのユークリッド距離算出法に従って、日本語漢字と中国語漢字の音韻類似性を判定するという精緻な手続きを踏んでいる。実験参加者についても、中国の大学で日本語を学習する大学生に協力を求め、読解および聴解テストを行って、実験目的に適合する学習者を対象としている。このような綿密な準備と手続きをもとに得られた実験結果は信頼性の高いものであると評価できる。

そのような実験結果に基づいて、研究課題である、高い読解力を持つ学習者であっても聴解力に差がつくのはどのような要因によるのかを以下のように考察している。まず、中国人日本語学習者のメンタルレキシコンの構造を、日中語それぞれの音韻表象、意味表象をユニットとし、それらが連結したネットワーク構造を持つモデルとして提唱している。そのモデルに従って、差異の要因は、メンタルレキシコン内の休止活性化レベル、およびL2音韻表象と意味表象の連結の強さの相違によると結論した。このような理論的説明は、認知的心理学的研究の主流をなす論法であり、考察の進め方、およびその深さにおいて十分に説得力のあるものであると評価できる。

従って、本論文は学位授与にふさわしいものであると判定した。